

## 「石川家の家訓」

愛知県・安城市立明祥中学校 2年 石川 明佳

わたしは、小さかった時わたしの父に不満を感じていました。なぜなら流行のおもちゃやゲームなど、友達は親に買ってもらっているのに何度たのんでも買ってもらえなかったからです。その頃は全然我慢ができない年頃で、思わず父に、

「どうしてわたしは、他の子と違って買ってもらえないの。」

と、泣きながら聞きました。すると父は容赦なく、

「人の家は人の家だ。いやだったらその家の子供になりなさい。」

と決まって言ってきます。自分勝手だけれどかなしくって、くやしうって友達がおもちゃやゲームの話をする度ねたんだりのくり返しでした。

それから数年たって、どこまでが言っていることとどこまでが言っていることかは分かってきました。しかし、友達を見ているとやっぱり不公平だと思ったり話題についていけなくってくやしうたりしたこともあります。毎度ぐっとたえて日々過ごしていました。そんなある日のことでした。この時中学1年生だった兄が父にケータイについてどうしても欲しいと相談していました。とても熱心にあつく語った兄の努力もむなしく、父は、

「中学生が何に使うんだ。どうせ遊びに近いだろう。本当に欲しいのだったら、家の農家の仕事を手伝ってこづかい貯めて自分で買いなさい。もちろん毎月の使用料も自分で貯めるんだぞ。」

と返事をしました。わたしは、てっきりそう返事を返された時あきらめちゃうのかなと思いましたが、兄は、

「分かった。自分で貯めて、自分で払うよ。そうしたら買っていいんだね。」

と今までの兄とちよっぴりちがった様な気がしました。わたし達兄妹は父にだめとか少しでも否定されたらあきらめていたので今回の事では驚きました。

そして兄は夏休みを活用してなんとか目標額を達成し、母にケータイショップへ連れて行って欲しいとたのんでいました。それを聞いたわたしは、ちよつとケータイに興味があったので一緒に連れてってとお願いし、ついていきました。兄は、苦勞して買ったケータイを手になにこにしてわたしは全然知らなかったケータイの種類や機能などを聞いて自分の世界が広がった気がして、ドキドキしました。帰りの車の中、話が尽きると父がいなくて母と兄とわたししか

乗っていないから、今なら母にあの父のお金に対しての頑固さについて聞ける  
と思い、おもい切って聞いてみました。すると母は運転しながら知っているか  
ぎりの事を話してくれました。

「お父さんは、小学校1年生の時に病気だった父親を亡くして、その時の借金を  
返しながら育っているから、お金を儲けることがどれくらい大変なのかよく知  
ってるの。だから、どうしたらお金が貯まるのか。使わなければいい。物は完  
全に使い切るまで使い切り、欲しい物があれば家にあるものを利用し、工夫し  
て使う。つまり買わないという考えがあるのよ。」

と語ってくれました。その話を聞いて、わたしはこれまでの父に対するいやな  
考えを捨ててみよう。なんとなく父の意見は正しいと思うから。そう、心に言  
いきかせたら今までのイライラが消えはしなかったけれど、そこまで他人をひ  
がむこともなくなりました。

月日がたち、中学に入学して新しい学校にだいぶ慣れて落ち着きが出来てき  
た頃、ケータイをもってる人がいたらアドレス交換しようよ。という声がよく  
耳にはいりました。ショップへ連れていってもらった時からチャンスがあれば  
欲しいと思っていたので、父に、

「自分で使用料も払います。本体も自分で買います。だから、お金が貯まったら  
ケータイ買ってもいいですか。」

と、聞いてみました。父は了解してくれ、とてもうれしかったです。わたしは、  
兄の様に力仕事は出来ないのでも1年間かけて、おこづかいを貯めたり、家事を  
したりして少しずつお金を貯めていきました。本当にお金を儲ける事は大変だ  
と実感できました。

2年生になり、やっとケータイを手にすることができました。顔の筋肉がなく  
なったみたいに、にたにたしてこれまでに味わったことがない程最高の気分で  
した。きっと働いて働いてできた汗の結晶だったからじゃないのかなと思いま  
した。それと同時に、考えすぎだとは思いますが父は働くことの大変さ、お金  
を儲けることの大変さ、そして、我慢して何かを得ることのすばらしさを教え  
てくれた気がしました。

わたしが家庭をもったら、この三カ条は伝えていきたいと思っています。